

チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	次世代までの安心につながるまちづくり	川崎市宮前区
アイデア名 (注1) (公開)	井戸端会議 (多世代型ワークショップ) で『人生下り坂から人生これからへ』 ～誰もが安心できる空気感のある街、宮前区～		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	こがも会		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 市民によるチーム <input type="checkbox"/> 2. 学生によるチーム <input type="checkbox"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数 (公開)	6名		
代表者情報	氏名 (公開)	関 豊子	
メンバー情報	氏名 (公開)	山崎 幸子、田浦 有美、鍋島 美加子 南 希代子	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて内容そのものをわかりやすく示してください。1 ページ以内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

井戸端会議（多世代型ワークショップ）で『人生下り坂から人生これからへ』 ～誰もが安心できる空気感のある街、宮前区～

【こがも会とは…】 こがも会は、ファイナンシャルプランナー、介護福祉士のグループです。介護・相続における家族の負担を軽減するため、準備と家族のコミュニケーションの大切さを伝える活動をしています。

【活動を始めた背景】 私たちが活動を始めた背景には、次のような状況があります。

●超高齢社会の進展に伴う地域全体での対応の必要性

超高齢社会となり、認知症、介護離職、争族など様々な問題が出てきています。ファイナンシャルプランナー、介護福祉士として働く中で、高齢になってからの生活に漠然とした不安を抱えている市民が、高齢者だけではなく若い人にもとても多いことに気づきました。これらの問題は、個人や行政あるいは専門家だけでは解決することが難しい状況となっており、地域全体で取り組んで行かなければならなくなっています。

●モヤモヤとした不安を抱えた高齢者やその家族への支援の必要性

老後の生活に漠然とした不安を抱き、その不安に対する相談場所がないと感じ、公的な支援制度について十分な知識がなく、老後への準備の方法や対策が分からない高齢者やその家族は、少なからず存在すると考えられます。こうした人たちに対し、ファイナンシャルプランナー、介護福祉士としての専門性を活かして、少しでも不安を解消する手助けができないかと考え、こがも会が生まれました。

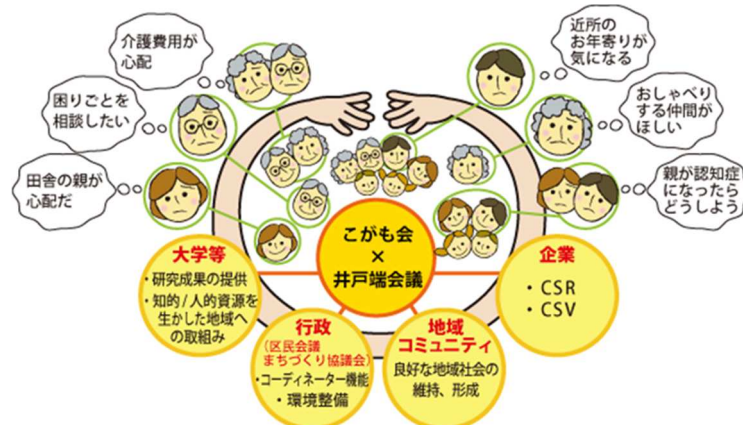


【こがも会の目指すもの】

●気軽に介護、相続、お金の話ができる「井戸端会議」の創造と定着

なかなか話にくい介護、相続、お金のことを気軽に話せ、相談できる交流の場が身近にできたら、漠然とした不安の解消につながるのではないかと——多世代で知識、情報を共有・共感し、地域に居場所ができ、生きる楽しさにつながるような **井戸端会議（多世代型ワークショップ）** を創り、地域に定着させることで、宮前区を **誰もが安心できる空気感のある街** にしていく一助となればと考えています。

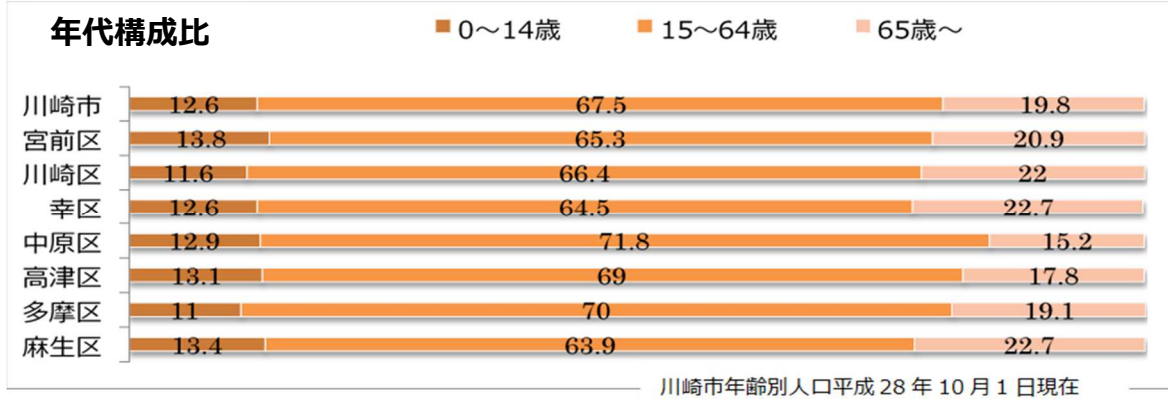
『人生下り坂から人生これからへ』 もっと気軽に介護、相続、お金の話をしよう！



(2) アイデアの論拠（公開）

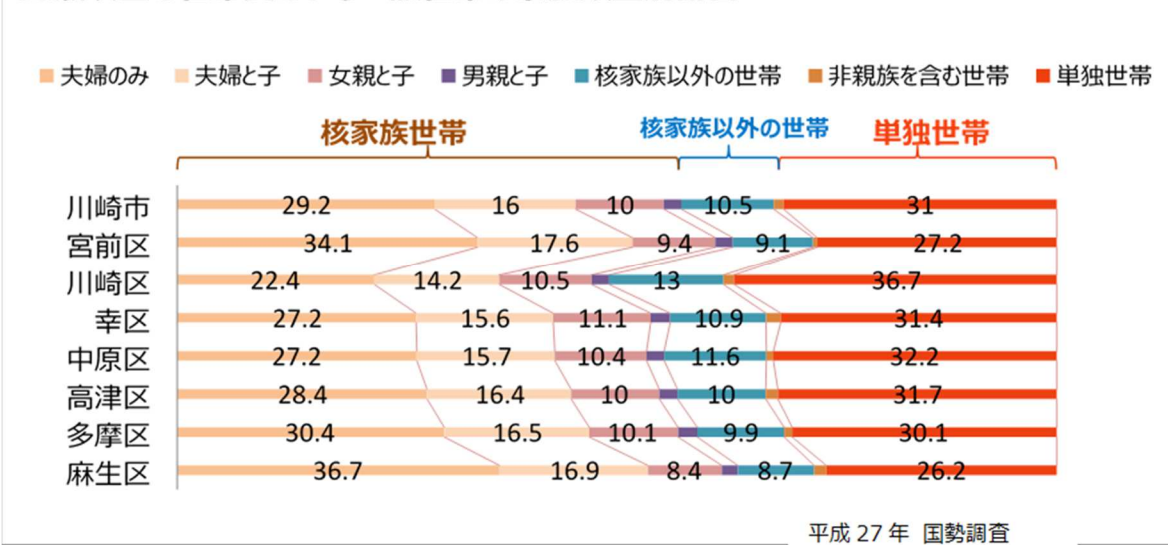
アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、2 ページ以内でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

【データ1】 宮前区の 65 歳以上の人口は全体の 20.9%と高齢化が進んでいる。（2017 年度は 19.3%）

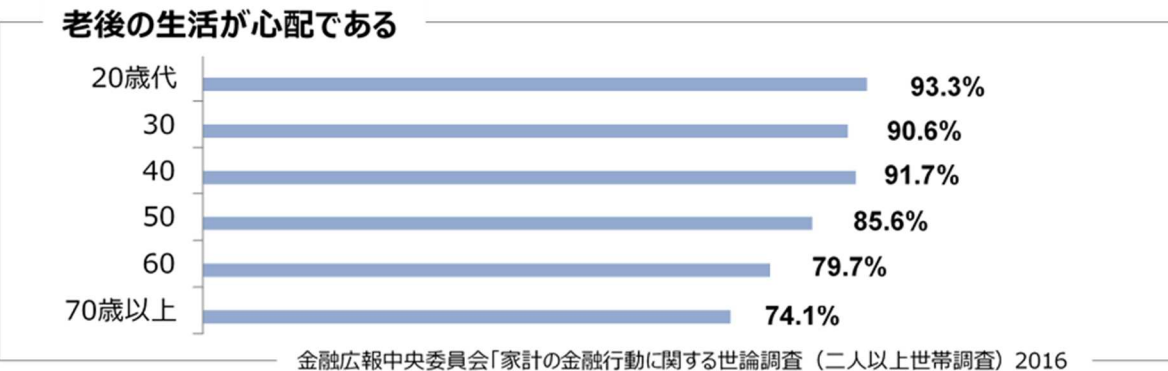


【データ2】 高齢者世帯は核家族世帯が多く、約 3 割は単独世帯である。宮前区は高齢夫婦世帯が 34.1%と多く、高齢者単独世帯の増加が見込まれる。

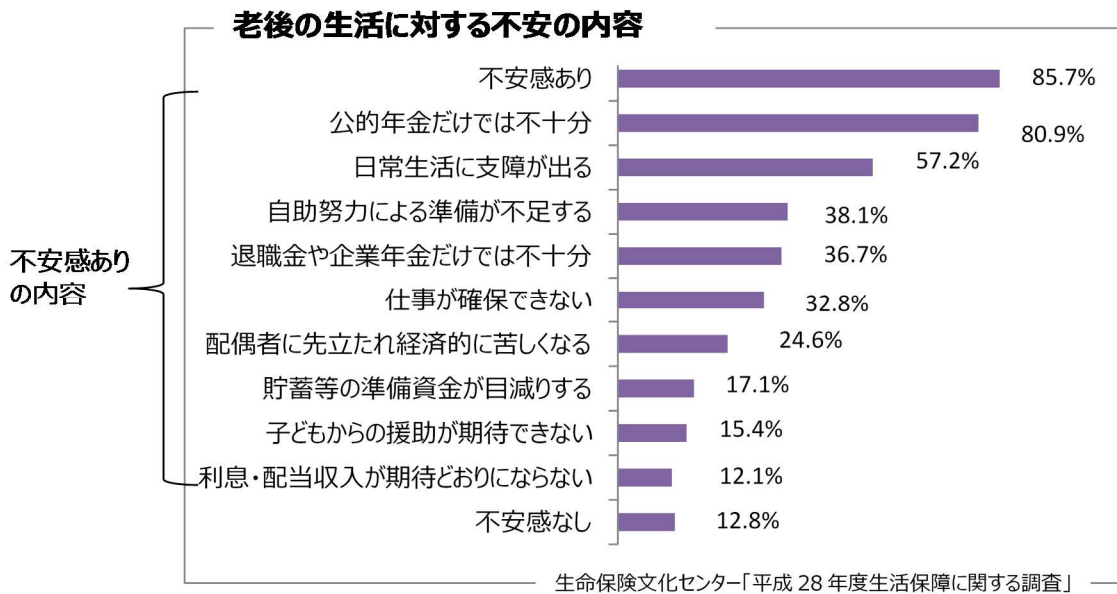
65歳以上の世帯員のいる一般世帯の家族類型別割合



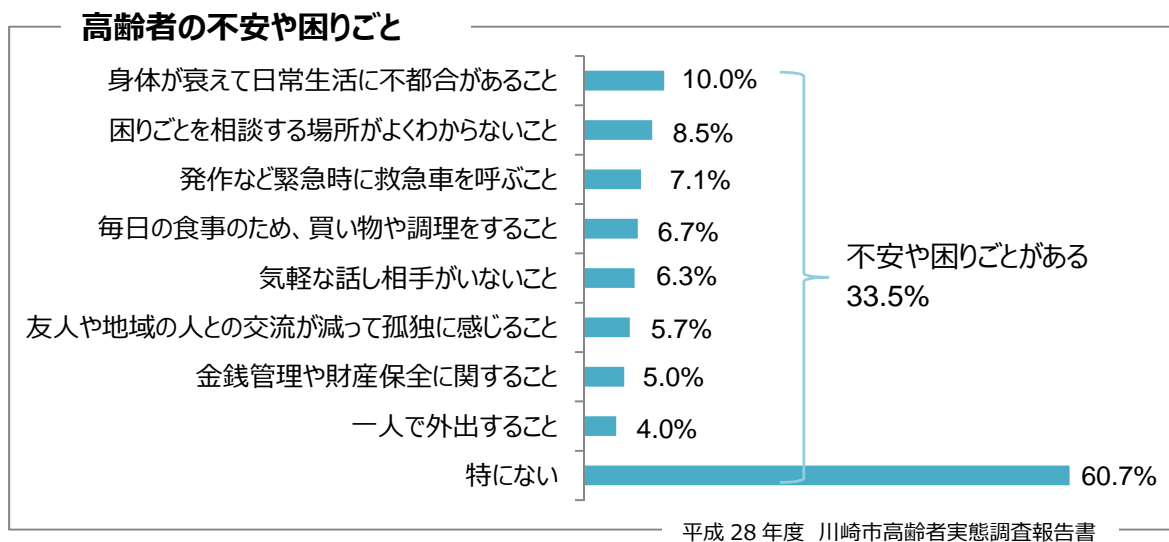
【データ3】 老後の生活が心配であると考える人は多い。特に 20 代から 40 代までは 90%を超える。



【データ4】 老後の生活に対する不安はお金に関する不安が多いことがわかる。

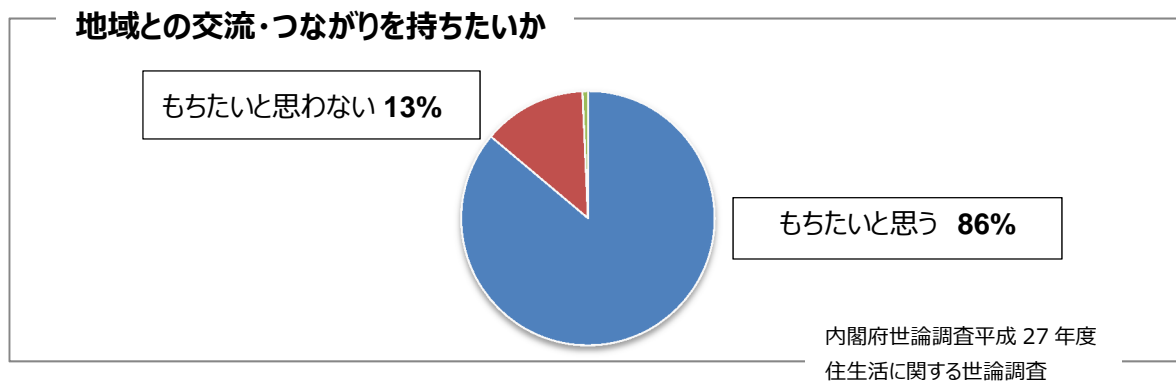


【データ5】 高齢者の 3 人に 1 人は困りごとがあり、困りごとを相談する場所がよくわからないとする人がいる。



【データ6】 地域包括支援センターの認知度 39.4% 平成 28 年度川崎市高齢者実態調査報

【データ7】 地域とかかわり、なにかお手伝いをしたいと思う人はいるが、きっかけがない。



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

これまでの活動

こがも会は、平成 25 年から、介護、相続、お金のことをもっと家族で話してもらうことを目的に活動を続けています。また、「少しでも楽な介護、円満な相続を目指して、日頃からの『準備』と『親子のコミュニケーション』の大切さを伝える」こがも会の活動に対し、宮前区まちづくり協議会から活動支援金の交付を受けています。

【具体的な取組】

1. 家族のコミュニケーションツールの作成

家族での話し合いのきっかけとなるよう、自らが介護、相続を経験したファイナンシャルプランナー、介護福祉士が専門知識を活かし、使い勝手の異なる 2 つのツールを作成しました。

◎介護、葬儀・相続準備ノート「こがもノート」

<目的> ・持っていてもなかなか書けないエンディングノートから、気軽に書ける「こがもノート」へ。

<特徴> ・気が付いた時に書けるところから書け、持ち歩きに便利なお薬手帳サイズ。
（介護編、葬儀・相続編の 2 種類）
・介護から葬儀・相続までの流れがストーリー仕立てになっていて、イメージがつかみやすい。



◎「これだけは書いておこうカード」

<目的> ・「こがもノート」から、より簡単に準備できる「これだけは書いておこうカード」へ。

<特徴> ・エンディングノートは書きづらいし、セキュリティーが心配だが、家族に迷惑をかけたくない方向けの 2 つ折りカードと封筒のセット。
・延命治療のこと、キャッシュカードの暗証番号など厳選した 5 項目のみを記入して封印し、いざという時に信頼している家族に開けてもらう。



2. 「こがもノート」、「これだけは書いておこうカード」の普及に向けた相談会・セミナーの開催

作成したツールが、区内で広く活用されるよう、様々な機会を捉えて普及・啓発活動を行っています。

<主な取組> ・宮前市民館ロビー（ロビー de カフェ）での相談会
・区内で行われた「まちかどマルシェ」、「公園マルシェ」に出店
・地域のコミュニティ（町内会、老人会）でのセミナー
・宮前区まちづくり協議会主催「宮前楽市」でのセミナー など

3. リサーチ活動 ～街に出て生の声を聞く～

セミナーなどの場でアンケートを実施し、今、区民がどのようなことに不安を抱いているかを把握するようにしています。

<アンケートで寄せられた生の不安の声>

・親世代(70 代以上)は、子に迷惑をかけたくない。
・どこで相談してよいのかわからない。
・親が心配な子世代(50 代以上)は、親のことは気になるが、忙しい、聞きづらい、そして自分の老後も心配になっている。
・核家族であるがゆえに、双方のコミュニケーションがとれていない。

<オープンデータから見える不安>

・老後の生活が心配であるとする人は多い。特に 20 代から 40 代までは 90%を超える。(データ 3)
・老後の不安はお金に関する不安が多い。(データ 4)
・高齢者の 3 人に 1 人は困りごとがあり、困りごとを相談する場所がよくわからない人がいる。(データ 5・6)
・地域とかかわり、なにかお手伝いをしたいと思う人はいるが、きっかけがない。(データ 7)

これからの活動

リサーチ活動で得た区民の生の不安の声や、オープンデータから見える状況を踏まえ、今後、こがも会として、多世代が気軽に介護、相続、お金について話せる、相談できる交流の場を創り、地域で定着させたいと考えています。

多世代が気軽に介護、相続、お金について話せる、相談できる交流の場

～井戸端会議（多世代型ワークショップ）～

- <目指すかたち> ●カフェでもセミナーでもなく、介護、相続、お金について話し合う**井戸端会議**
- 高齢者でも気軽に参加できる身近な場所で開催
 - 参加して楽しかった、良かった、また参加したいと思える場所に
- <効果> ●こがも会がファシリテーターとして意見を引き出し、議論を深めて、モヤモヤ不安を解消
- 問題点を共有・共感して、気づきや助け合いの気持ちを育み、ゆるやかにつながる

【具体的な取組】

Step 1 広報

まずは、介護、相続、お金に関して気軽に話せる**井戸端会議（多世代型ワークショップ）**を知ってもらう。

<広報手段> SNS（Facebook、こがも会 HP など）、町内会・自治会の回覧板、市民活動団体のお知らせ、これまでの活動に関わった方々の口コミ など。

Step 2 ワークショップの 開催等

身近な地域で月1～2回の介護、相続、お金に関する**井戸端会議（多世代ワークショップ）**を開催し、「こがもノート」等の販売で得た資金を活動資金とする。

<場所> 多世代が集まる市民館、区役所ロビー、スーパーマーケット、薬局 など。

～ワークショップの流れ～

◆まず、モヤモヤ不安に見える化

参加者は、家族のコミュニケーションツールとなる「こがもノート」、「これだけは書いておこうカード」を使って、準備しておくことを把握し、実際に書くことで見える化。

◆話すことで、モヤモヤ不安を解消

介護、相続、お金に関するモヤモヤ不安の解消方法について、参加者間で楽しく、気軽に、自由に話し、専門知識を持つこがも会メンバーと一緒に考える。

※必要に応じて大学等とも連携し、若い世代の参加や専門知識を活用。

◆自分の思いに共感を得て、安心感が生まれ、地域のつながりができる

一緒に考え共感することにより、地域とのつながりや安心感がうまれる。

※現在、第6期宮前区区民会議で審議中の「地域福祉コンシェルジュ構想」、「スモールビジネスネットワーク」の取組に今後、参画することも検討。

Step 3 広げる

井戸端会議(多世代型ワークショップ)の活動を草の根的に広げる。

<方法> ・井戸端会議の様子をこがも会や他の連携先のHP、Facebookで配信。

・こがも会井戸端会議サポーター制度を創り、サポーターを募集、育成して広げる。

Step 4 井戸端会議の 定着

複数の地域で、定期的に**井戸端会議(多世代型ワークショップ)**を開催し、地域に根付かせることで、宮前区を「誰もが安心できる空気感のある街」にしていく。



『人生下り坂から人生これからへ』

～誰もが安心できる空気感のある街、宮前区～

